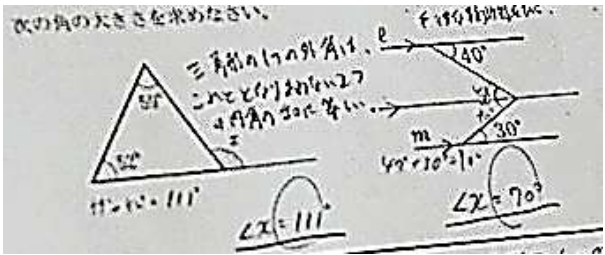


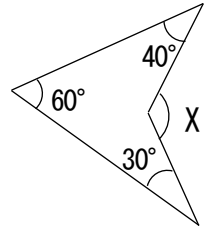


授業紹介特集 一人一授業公開・紹介⑮～⑰ ～帰郷を通して深学深業のを目指して～

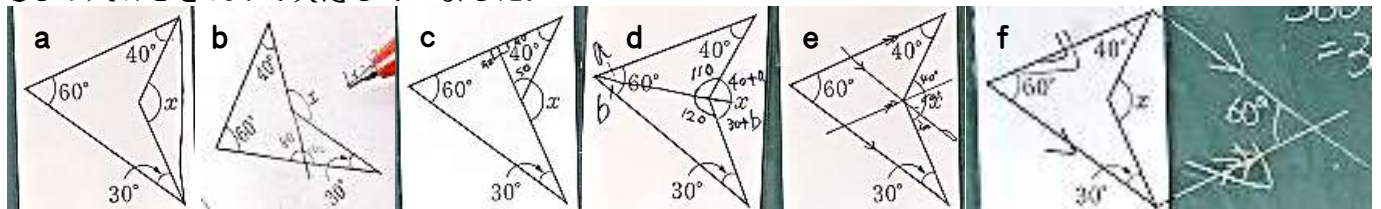
☆☆学習課題「凹四角形のへこんだ部分の $\angle x$ の大きさを求めよう」☆☆☆☆☆☆ 2年1組担任・研修主任：三田治樹先生（2年4組・数学）



始めにこれまでの授業で学んできた「三角形の外角は隣り合わない2つの内角の和に等しい」こと、「平行線の同位角・錯角は等しい」性質を利用できるように補助線を引くと求められることなどを確認しました。本時の授業は、これらの図形の性質を活用する授業です。「ブーメラン形の四角形のへこんだ部分の $\angle x$ の大きさを求めよう。」



という課題が出されました。読んでいる皆さんも、 $\angle x$ の大きさを、できる限りたくさんの方で求めてみてください。生徒たちは、図形の性質が利用できるように補助線を引き、三角形の内角の和の大きさを利用して求める方法(a)、四角形を半分にして三角形の外角の大きさの性質を利用して求める方法(b, c, d)、平行線の錯角や同位角の性質を利用して求める方法(e)、平行四辺形をつくり、四角形の内角の和を利用して求める方法(f)など、多様な考えが出されました。どの方法を用いても 130° となりますが、方法別に生徒が黒板に発表し、自分が思いもよらない方法もあり、「すごい」「なるほど」など、感嘆の声が聞こえました。皆さんはいくつ考えることができましたか。三田先生の数学教師としてのモットーは「できる、わかる、楽しいの3つを授業で味わえるようにしたいこと」です。どの生徒も、数学的活動を通して数学のおもしろさを味わいながら、図形の性質が利用できるように補助線を引く見通しの大切さを改めて実感していました。



☆☆学習課題「キューブパズル、作品をバージョンアップしよう」☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 2年学年主任：田神志乃婦先生（1年4組・美術）



キューブパズルとは、木枠に入った六面体のパズルを9ピース用いて、表にくる面を代えることで、六つの絵を表現するものです。基本的なデザインは決まり、制作はある程度進んで来ている段階ですが、「絵の形がはっきりしていない」「色はどのように選んだらよいか」など、一人一人に課題があります。そこで本時では、「よりデザインを引き立つには、着色や彫刻をどのように工夫するか」を考えていきます。手がかりとなるのは、先輩たちの完成したすばらしい作品でした。「陰を描いて立体的になっている」「グラデーションがきれい」「周りを彫って絵が浮き出ている」など班員は気付いたことを口々にしていきました。このような工夫している点を全体で確認したあと、自分のデザインを引き立てるようにどうすればよいかを考えました。Hさんは、先輩の水面を表現するのに「石目彫り」という技を使っているのに興味をもちました。またYさんは輪郭を彫ることで、よりツバキの花を際立たせようと思いました。自分の工夫を決めて、完成したパズルを思い描き、一人一人、無心になってその後の制作を進めていきました。田神先生の美術教師としてのモットーは、「一人一人の作品のよさを引き出し、作品づくりに誇りをもてるように支援すること」です。今から完成が楽しみです。



☆☆☆学習課題「かぐや姫はなぜ地上世界にいたいと思うのか」☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

1年2組担任：近藤瑞歩先生（1年2組・国語）



「かぐや姫」の原典「竹取物語」が題材です。生徒は、これまでの読み取りで月の世界は「美しい」「年をとらない」「思い悩むことがない」理想郷であること、対して地上世界は「けがれている」「悩みがある」「人としての感情がある」「いつか死んでしまう」、そして「かぐや姫は月で犯した罪を償うために罰として地上世界に落とされたこと」などを読み取っています。そんな地上世界であっても、かぐや姫はずっと残っていたいと思うことに生徒は心を揺さぶら



れています。そこで、「なぜかぐや姫は、そんな地上世界にいたいと思うのか」を翁や媪との生活や帝とのやりとりを中心に申し合い、さらに「作者は地上世界をどんなところだと思っているのだろうか」を考えていきました。「地上世界は、嬉しかったり、楽しかったり、思い悩んだりするからいい。」「年をとり、いつかは死んでしまうけど、思いやりや心がちゃんとある。だからいい。」「月と比べてきたないけれど、心はきれいだ。」などの意見が出ました。生まれたからにはいつか死が訪れる、だから精一杯命を大切に生きていくことが素晴らしいことだという深い意味を、生徒のことばで表現していました。近藤先生の国語教師としてのモットーは、「文学を通して日本人の歩みを知り、日本人として誇りを持って生きるために基本的な読み書きや会話を身に付けられるようにすること」です。生徒たちは、中学校を通して「竹取物語」「宇治拾遺物語」「平家物語」「徒然草」「枕草子」などの古典に触れていきながら、いにしへの昔から、素晴らしい文学を著している日本人として、誇りを感じていきます。

☆☆☆学習課題「長距離走を自分に合ったフォームで走れるようになろう」☆☆☆☆

1年3組担任：清水一臣先生（1年1組・保体）



「長距離走で疲れないように気をつけていることは何ですか？」と問われると、「ペース」「呼吸のしかた」「腕の振り」「歩幅」「足の動かし方」などの意見が出てきました。そこで、本時ではその中で自分にあった「腕の振り」や「歩幅」「足の接地」を意識して走るようになることを目標にしました。まずは「腕を振らない・横に振る・普通に振る」「歩幅を60cm、90cm、120cmで走る」「足の接地をかかとからつく・足裏をつける・つま先で走る」を体験させました。その後に生徒に確認すると、「腕は普通に振る方が走

りやすい」「振らない方が疲れにくいんじゃないの？」「軽く走るときより、少し歩幅を大きくした方が走りやすい」「自分は無理なく普通の歩幅の方が走りやすい」「かかとから接地した方が走りやすい」などの意見が出ました。12分間、自分に合うと思ったフォームで走ってみました。無理なく自然に走っている生徒もいれば、途中から顔をゆがめ出す生徒もいました。走った後にどうだったかを確認しました。腕を振らない方がよいと思った生徒は、「いつもよりもすごく疲れた。腕は振った方が、体が前にでる感じがする。」歩幅をやや大きめの方がよいと思った生徒は、「疲れた。でもペースを上げるときは、いつもよりも大きめにすればよいと思う。」また、足の接地については「かかとからつくくと自然に走れる感じがする。」「つま先でずっと走



っていたら、疲れた。」「つま先は、スパートをかけるときは使うとよいと思う。」などの感想や意見が出ました。本時で自分に合ったフォームが完成した訳ではありませんが、「腕の振り」「歩幅」「足の接地」などについて意識できたことが大きな収穫でした。清水先生の保健体育の教師としてのモットーは、「自分の健康を自分で管理できるようにしていくこと」です。この長距離走でも、自分の走り方について自覚し、調整できる力がつくように指導していました。

